自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念かといわれると、そうでないかもしれない	法人の理念を元にグループホーム独自の理念を掲げ、会議などでも理念を共有し、実践につなげています。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にはできていないです	地域の祭りのだんじりの休憩場所を提供したりと、地域の関わりを大切にされています。	今後キャラバンメントを行う予定です。地域の方に認知症の事を周知すると共に、地域との交流が増えることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年キャラバンメントの講習に行き、今年からサポーター養成講座を受講します		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出ています	二か月に一回開催されており、香芝市の介護福祉課、地域包括、民生委員、家族、施設長が参加されています。利用者の状況報告、行事など話され、そこでの意見をサービスの向上に活かされています。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	出ていていると思います	市の職員の方が運営推進会議に参加される他、グループホームの会議にも参加されています。又、緊急避難の利用者の方の受け入れを行ったりと協力関係を築かれています。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしています その他の身体拘束はしていませんが、たまにスピーチロックをしてしまうことがあります	玄関は施錠されていますが、ホーム内は自由に行き来出来るようになっていました。又、身体拘束のマニュアルがあり、研修も行っており、身体拘束しないケアに取り組まれています。	
7		虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出ています		

8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はそこまで出ていません		
9	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来ていると思います		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに話して、要望などがあれば、職員で共有するようにしています	面会時に家族から相談を受けたり、意見や要望も言われ、何でも話せる関係作りをされています。意見や要望は、職員間で共有し、運営に反映されています。又、定期的に近況の手紙を写真入りで送付されています。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	出ています	月に1回会議を行い職員から意見を聞く機会を作られています。又、日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出ています	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そのように努力はしています	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は同業者と交流する機会を持っていますが、職員はあまりありません	

安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ています		
16	初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています		
17	初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ていると思います		
18	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けるよう努力しています		
19	本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けるよう努力はしていますが、難しい家庭もあります		
20	馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めていますが、かえって混乱が生じる場合もありますので、一概に言えません	家族協力のもと以前から利用されていた理美容を利用されたり、月に何回か自宅に帰られるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援されています。	
21	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めていますが、孤立してしまう場面もあります		
22	関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談して下さった時には、そのように努めたいと思います		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しています	入所前に本人や家族の希望や意向を把握されています。又、日常の会話などでも意向の確認を行っています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	努めています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めています		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	あまり出来ていません	6ヶ月に一回ケアプランの見直しを行っていますが、状態の変化によってその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	努めています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのように努めています		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に重きを置きすぎて、豊かではない部分もあります		

30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	しています	家族や入居者の要望に応じて医療機関へ付き添い受診もされています。体調不良の際は随時協力内科医へ受診できる体制をとられています。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護職員はいないので、かかりつけ医に電話で相談しています		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院関係者に詳細に情報を交換出来るよう努めています		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態を第一に考え、支援が出来るよう努めています	終末期の看取りはされていませんが入居者の様子やご家族の意向を第一に考え、その状態にあった環境や設備の整った場所につなげられるように対応しています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学び実践出来るよう努めています		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、災害時に迅速に対応出来るよう努めています	年に2回実施され、その1回は消防署立会いで実施されている。また、夜間想定訓練や、緊急時の連絡網を作成し、準備されています。	避難訓練は定期的に行われているのでスタッフや地域住民の方々との連携を図ることで、一人でも多くの命を守れると思いますので期待しています。

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めてはいますが、出来ていない部分もあります	各入居者のお部屋に訪問する際はかならずノックをし返事をいただいてから訪室されたり言葉使いに対しても職員同士で注意し合い入居者の方の人格、人権を尊重されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ています		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくしていますが、集団生活の中で周りにあわせて頂く事もあります		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	しています		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はほとんど職員でできています。米研ぎ等はして頂いています。	ホールにキッチンがあり自炊されていると自然と職員と入居者のかたと一緒に食事を作ったり出来る環境にあります。誕生日にはその方の好きな物を作ったりされています。また、日帰り旅行などでも好きなものを選んでいただいています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	出来ています		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ています		

43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各々にあったタイミングでトイレ誘導はしますが、おむつの使用はなかなか減りません	個別での排泄表を通して排尿パターンを把握し出来る限り入居者の状態に合わせてトイレでの排泄介助を支援されています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来ています		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来ていません	週に2回の入浴されていますが、その日の状態や本人の希望なども取り入れ、柔軟な対応が出来るようになっていました。また、入浴できない場合は清拭等されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	努めています		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています	努めています		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	努めています		

49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	あまり出来ていません	気候の良い日に近くの公園を散歩されたり、職員が企画をたてて日帰り旅行などされています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていません		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望があればお応えします		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努めています	廊下が一直線で見渡しもよく、歩きやすい。またリビングは光がよく入り気持ちよく入居者のかた皆さんが集まってゆったりと出来るスペースも確保してあります。壁には入居者の作品が展示されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	努めています		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく出来るように努めています	居室は入居者のかたの馴染みのあるものを置いて使用できるスペースもあります。洗濯物を個人で干されたり、タンスや仏壇も置いていただくことも可能です。また、広く収納スペースも確保されていて使い勝手がよいです。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	努めています		

アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらい の 利用者の3分の1くらいの ほとんど 掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	基本的には ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらい が 利用者の3分の1くらいが ほとんど いない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらい が 利用者の3分の1くらいが ほとんど いない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらい が 利用者の3分の1くらいが ほとんど 1/5 いない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらい が 利用者の3分の1くらいが ほとんど いない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらい が 利用者の3分の1くらいが ほとんど いない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	ほぼ全ての利用者として 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどでき ていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えて いる あまり増えていない 全くな い
66	職員は生き生きと働けている	1/2	ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらい が 利用者の3分の1くらいが ほとんど いない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	わかりません	ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできてい ない